

# 名事研=ユース

No.144

発行日 平成24年6月8日

共に創ろう！名古屋の学校事務 平成24年度事業が始まります。

## 「名古屋の学校事務のグランドデザイン」の推進

会長 榊原 功剛（富士中学校）



名事研では、子どもたちの輝く未来のための学校づくりには、学校事務の職を確立する必要があると考えています。

そのため、名古屋の学校事務職員一人ひとりが、積極的に学校事務に係わり、名古屋の学校事務をより効果的に機能させる方策として、平成23年度に、「名古屋の学校事務のグランドデザイン（以下、GD）」を策定しました。

このGDは、3つの戦略と5年間を通じた目指す目標、各年に設定した年次テーマから成り立っています。GDの目指す目標と同じように、メインテーマ「名古屋の学校事務をデザインする」は5年間同一としました。

サブテーマは、「名古屋市教育振興基本計画」の基本理念「夢に向かって人生をきり拓くなごやっ子の育成」から、私たち学校事務職員も常になごやの子どもたちのために教職員や保護者などと同じ願いで取り組んでいく思いを込めて、～夢に向かうなごやっ子のために～としました。

GDは名古屋の学校事務をもっと良くしていくための研究活動の指針、コンパスです。昨年度に引き続き、一人ひとりが具体的な実践をしていくことが必要です。いろいろなことのうち、みんなが共通に取り組む活動により、方向性がそろい、名古屋の学校事務のベースとなる形をつくっていければと思います。そして、どの学校でもなされる学校事務のあり方があるこそ、取り組みをより発展させることや地域性などの特色ある活動になっていくと考えています。

世代交代の進展により、名事研はもとより、それぞれの職場や連携組織などで、若い人たちの力を生かしていくことが必要となっています。そのためには、ベテランや中間層の人が率先して取り組み、先導していくことも求められてきているのだと思います。

また、足元の問題に解決策を見つけることが、「学校事務のあり方」を考えることにつながることもあるのではないかと思います。

そうした取り組みから、「名古屋の学校事務」を創っていくこと、提言していける名事研にしていきたいと考えます。

会員が一体となり、連帯感を持ち、新しい名古屋の学校事務を創っていくための活動が着実に一步前進できればと思います。

# 定期総会・講演会



4月25日(水)に名古屋市教育センターで平成24年度定期総会が行われ、平成23年度事業報告・決算報告、平成24年度事業計画・予算案等が承認

されました。事業報告の際には、「名古屋の学校事務のグランドデザイン」に係わる各部の取り組みについて質問がされ、5ヶ年計画の2年目として、少しずつ会員の意識にも浸透しつつあることが感じられます。事業計画案については学校間連携との関係の質問も出されて、研究会としての存在意義を全員で考える時期にきていることを強く意識する会となりました。

また、定期総会の最初に新規採用者のあいさつがあり、今年度も30名という多くの仲間が新たに加わってくれました。この5・6年でおよそ3分の1の事務職員が変わっています。将来の名古屋の学校事務を担う中心として育ててほしいと思います。

定期総会に先立って行なわれた講演会では、名古屋市教育委員会教職員課長 森和久氏を講師に、「学校事務職員に期待するもの」をテーマにお話をいただきました。前年度行われた名古屋版事業仕分けの様子から、「費用対効果」の考慮、しかしそればかりに労力を向けるのではなく、教育論の視点から有効策を検討し、それをどう外部に伝えるかの必要性、昨今言われる教員が子どもに向き合う時間の確保とは、学校が組織として子どもと向き合う時間の確保であり、一人ひとりが協働の中でどうするかという視点が必要ということ、コミュニケーションの重要性と校内の情報収集する上での「状況認識力」などの点で、学校の唯一の行政職としてどう係わるか考えてほしいとされ、最後に研究会の貢献度に触れ、「共に学び合う」重要性を説明されてまとめとされました。



## 専門部紹介 よろしくお祈りします！

### 事務局 事務局長 毛利 和正

最近読んだ本の中で、仕事の効率化における3つの壁として、①特効薬がない、②万能薬がない、③副作用を伴う、ことが取り上げられていました。

私たちの仕事においても絶対というものはありません。また、万能な対策もありません。

そして、時には痛みを伴うこともあるでしょう。なので、常に最善の方法を考えていくことは大切です。仕事の進め方に、研究に、終わりはありません。だからこそ、会員のみなさまとともに、『今できる最善』を考えていきたいです。

### 研究部 研究部長 田口 行博

名古屋市内の全小中学校で学校間連携が実施されてから2年が経ちました。みなさんは、もう学校間連携に慣れましたか？

研究部では、いままでの研究成果を基にして、新しい学校事務のかたちや学校間連携のスタンダードについて研究をすすめます。あなたの考える新しい学校事務についてご意見をお寄せください。

### 研修部 研修部長 遠藤 剛

今年是大河ドラマ「平清盛」を観ています。その中で「この面白い世を面白い」というような台詞が何度も出てきます。事務職員も自らの状況に対して様々な考えがあるとは思いますが、何が面白くなって何が面白いか突き詰めていくと案外近い答えに辿り着くのでは？と最近考えています。

研修部は今年もみなさまの資質向上のサポートをします。お気づきの点等ありましたら、いつでもお教え下さい。

### 情報部 情報部長 早川 数幸

学校事務支援センターが設立され、情報部の役割も見直す時期にきています。これまで行ってきた事業の精選から、どこに力を入れて、どのように会員のみなさまに還元していくのか。研究会の中での情報発信と会員支援のあり方を会員のみなさまと協力して模索していきたいと思っています。よろしくお祈りします。

専門部では現在も部員を募集しています。一人でも多くの方と協力して活動していきたいと思っています。興味のある部があれば、直接各部長まで連絡してください。お待ちしております。

#### 編集後記

5ヶ年計画の2年目がスタートしました。さまざまな状況の変化から、研究会の役割について、会員一人ひとりが考える時期にきています。会員のみなさまと共に創る組織として、お互いを「つなげる」ことができるようにしていきたいと思っています。